

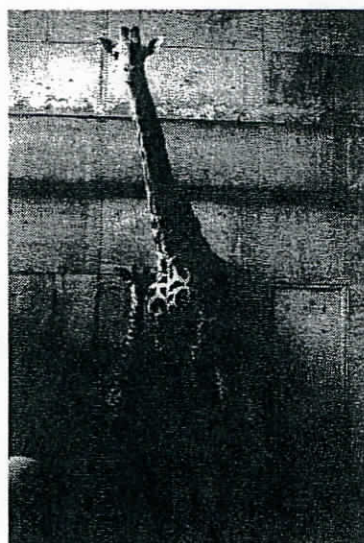
・チンパンジーの群れ繁殖

チンパンジーの繁殖は、どうも学習が必要なようです。チンパンジーの繁殖を目的に成熟した雌五頭を集めました。幸い交尾の上手な雄にも恵まれ出産はできるようになりました。そして、当園誕生第一号は九州では二番目の繁殖という快挙でしたが、母親ヨウは全く幼獣に興味を示しません。二頭目の母親リズはとても赤ちゃんを大切にしますが、抱き上げて乳房のところに持って来ようとしません。やむなく人工哺育です。次に出産した母親スーザンは生み捨てでした。チンパンジーの場合、生まれた幼獣は他の動物のように自力で乳房にはたどり着くことができません。母親が抱き上げて乳を飲ませないといけないのです。これが難しいのです。ところが、次の母親ナナは子育ての方法を知っていたのです。他の個体も、赤ちゃんを大切に群れのルールは知っていたようです。とても赤ちゃんを大切に見守っていました。翌年、リズとスーザンは出産して子育てを始めました。チンパンジーにおける子育ての学習を経験しました。

このほかにも、レッサーパンダが赤ちゃんに口移しで離乳食を与えたこと発見したり、フラミンゴの人工哺育、グラントシマウマの人工哺育など、まだまだ、エピソードは尽きないのですが、繁殖についてはこのくらいの紹介にします。



インドトキコウ



キリンの親子



ダチョウの雛



フラミンゴの親子

(3) 導入動物

それでは、どのような動物が仲間入りしたのでしょうか、これも、当園が初めて導入した主な動物を年次順に記載してみました。一九七一年度末に飼育していた種

チンパンジー、カニクイザル、ブタオザル、ニホンザル、カイウサギ、テンジクネズミ、ライオン、デインゴ、マレーグマ、インドゾウ、グラントシマウマ、ツシマウマ、ロバ、ミゼットポニー、フタコブラクダ、キョン、ハナジカ、マサイキリン、エランド、ニルガイ、スイギュウ、フサミミオリックス、オグロヌー、



アカクビワラビーの幼獣



チンパンジーの親子

一九七二年	トムソングゼル、バーバリーシープ、トカラヤギ、ヒツジ、スプリングボック、ブラックバック、ダマワラビー、ダチョウ、シユバシコウ、インドトキコウ、チリーフラミンゴ、アヒル、ガチョウ、エジプトガン、インドクジャク、シンジュホロホロチョウ、キンケイ、シチメンチョウ、インドオオヅル、ホオジロカンムリヅル、カンムリヅル、クジャクバト、アカコンゴウインコ、ルリコンゴウインコ、アルダブラゾウガメ、インドニシキヘビ
一九七三年	ジェフロイクモザル、クロクモザル、ヒョウ、トラ、ライオン、ベニコンゴウインコ、アジルテナガザル、オランウータン、シナガチョウ、バリケン
一九七四年	サンケイ、アネハヅル、クロヅル、ヒドリガモ、アジアスイギュウ
一九七五年	ミミナガヤギ、ヒワコンゴウインコ、カルガモ、ニホンキジ、コウライキジ、コジュケイ、ハツカン
一九七六年	インドガン、コフラミンゴ、ヨーロッパフラミンゴ、リスザル
一九七七年	シマリス、ペリカン、ベニイロフラミンゴ
一九七八年	ハムスター、ボンネットモンキー、ノドジロオマキザル、レア
一九七九年	ボアコンストリクター、アミメニシキヘビ、オキナワオオコウモリ、インドオオコウモリ、チャーイン、イシガメ、クサガメ
一九八〇年	マール、コクチョウ、ハクチョウ、セキセイインコ、キバタン
一九八一年	ローランドゴリラ、コザクラインコ
一九八三年	アカクビワラビー カピバラ、マレーヤマアラシ

一九八四年 シフゾウ、タイワンリス、クロエリハクチョウ、マゼ

ランガン、コモンマーモセット、ムネアカタマリ

一九八五年 ボールニシキヘビ

一九八六年 ミーアキャット、アカカンガル

一九八七年 アフリカハゲコウ

一九八八年 アフリカゾウ

一九八八年 アカハナグマ、アライグマ、エゾリス、

ボールニシキヘビ、アフリカヘラサギ、ニシムラサキ

エボシドリ、ツクシガモ、コシジロヤマドリ、プレ
リードグ

一九九三年 ツメバガン、ピグミーマーモセット

一九九四年 ハワイガン、スマトラオランウータン、シロフクロウ

一九九五年 レッサーパンダ

一九九七年 トナカイ

一九九九年 ミニブタ、タンチョウ、アフリカタテガミヤマアラシ

二〇〇一年 ナマケモノ、アルパカ、コモンラッパチョウ、ユーラ

シアカワウソ、アカネズミ、カヤネズミ、ハツカネズミ

二〇〇二年 アメリカバイソン、ケープペンギン、アフリカンド

アーフ

二〇〇三年 エミュー

二〇〇四年 ソデグロバト

二〇〇五年 アジアゾウ

二〇〇六年 コーンスネーク、アカダイショウ

現在、導入する野生動物は、主に国内の動物園からやってまいります。これは、著しく野生動物が減少し、野生からの導入が不可能に近い状態だからです。ワシントン条約や検疫により法的にも困難な状態です。種の保存と同時に動物の展示といった観点からも繁殖は動物園の大きな社会的役割になっています。

さて、二〇〇五年に導入したアジアゾウの場合は、ワシントン条約に該当する種ではありませんが、二世代前の祖父母にあたる個体が既に飼育下で人間と共に暮らしており、しかも、飼育下で繁殖してきた個体とのことでした。この場合、国際的には、本来簡単な手続きで輸入できるのですが、タイの国内法でその手続きに若干手間取り、約一年間導入が遅れた経緯があります。一方、ゾウの導入が非常に困難なことも事実です。通常、手続きに二、三年かかるのは短い方で、未だ手続き途中の動物園が国内には数ヶ所あります。当園がこれほど早く導入することが出来たのは、宮崎市ほか関係者の努力の賜物であります。特に、長年、タイで植林活動をしてこられた「みどりのコンビナート研究所」様の貢献が大きかったものと感謝しています。

アジアゾウの輸送についても、容易なものではありませんでした。希少種で大型の動物のため、また、日程等を考慮すると到着する飛行場は成田国際空港しかなく、そこからは陸送です。飼育員が二名、獣医が二名、タイの飼育員が一名随行しました。二十七時間の長旅でした。飼育もタイより二名の技術者が当園の職員となり繁殖まで世話をする予定になっています。

(4) 施設の推移

施設についても、年次順に記載します。

一九七〇年四月 フェニックス自然動物園建設工事着工

一九七一年 完成（総工費 約十億円）

アフリカ園二万六千²m、アジア園六千²m、遊

園地九千²m、プール 一万²m

一九七二年 猛獣舎二百六十六²m、クモザルの島二百十²m、

クジャクバト舎 六十七²m

一九七五年 フラミンゴ村（繁殖場）八百²m

一九七六年 アジア園鳥類繁殖場千六百²m、こども動物村三

一九八〇年	類人猿舎、マール展示場 六十 ² m
一九八三年	カピバラ展示場二十二 ² m、ヤマアラシ展示場十三 ² m、ニホンザル展示場六 ² m
一九八四年	ハチドリ展示館 十四 ² m
一九八五年	ニホンザル舎 二十 ² m、フクロウ 六 ² m、ミーアキャット二十五 ² m、クジャクバト舎、インコ展示場
一九八六年	フラミンゴ繁殖場 三百七十五 ² m、カンムリヅル繁殖場三百 ² m
一九八七年	ニシキヘビ舎 八・四 ² m
一九八九年	ラクダ展示場一二・七、五 ² m、カンガルー展示場三百十 ² m、カピバラ展示場 二百二十五 ² m、シカ展示場三百 ² m
一九九〇年	トリ園千五百 ² m、シカ園追加展示場七百五十 ² m
一九九一年	ハイラックス展示場十六・七 ² m、タンチョウ七十四・三 ² m
一九九二年	シヨジョウトキ三十一・六 ² m
一九九四年	動物小屋一三・八 ² m、診療室改造、アスレチック施設（ころりん村）
一九九七年	レッサーパンダ舎 百四十五・六 ² m ゾウガメ展示場四十四・五 ² m、水鳥（家禽）コーナー三百七十四・五 ² m キョン展示場二十四 ² m、マール百五 ² m アライグマ展示場五十七・六 ² m ラッパチョウ他、クマタカ展示場三十五 ² m カワウソ展示場、ペンギン展示場 ハナジカ展示場八百 ² m、リスザル展示場六十 ² m トナカイ展示場二百五十 ² m、こども動物村展示

場館

二〇〇三年	フラミンゴショー舎立替百八十 ² m、カメ展示場六十七 ² m
二〇〇四年	ゾウ舎八百二十五 ² m
二〇〇五年	ウサギ・モルモット舎

二〇〇一年に宮崎市営となつて以来、下水道の完備や電気配線の整備、上水道の整備他が実施されております。その他、二〇〇七年度は動物の糞等を肥料化する堆肥装置の建設も進んでいます。

(5) 入園者の推移

入園者の推移は、次のグラフのとおりです

なお、二〇〇〇年までの集計数値は、(社) 日本動物園水族館協会年報に報告があつたデータを使用しました。